

室蘭における日本製鐵を中心とした鉄鋼業社宅街の拡大と施設配置について

—室蘭における鉄鋼業社宅街 その1—

日本建築学会計画系論文集/ No. 657/ pp. 2701-2708/ 2010年11月

正会員 角 哲 君

本研究は、これまでの近現代建築史、都市計画史、建築計画史ではあまり正面切っ取りあげられることの少なかった、いわゆる企業城下町全体の形成プロセスを、丹念な資料収集と関係者からの貴重な証言をもとに紡ぎあげた労作である。

社宅街等の企業建築にかかわる研究は、これまで主として炭鉱住宅などのように「住宅供給問題」に関連する形でとりあげられることが主流であったが、本研究ではさらに、企業によって形成された市街地全体の計画過程に着目しているところが、新しいアプローチといえる。

ともすると、事例研究に陥りがちな個別の都市形成プロセス研究を、社宅街という一貫した切り口を提示することによって、一般論として、民間事業者がかたちづくる都市形成理論として発展させていく可能性を示している点が大いに評価される。